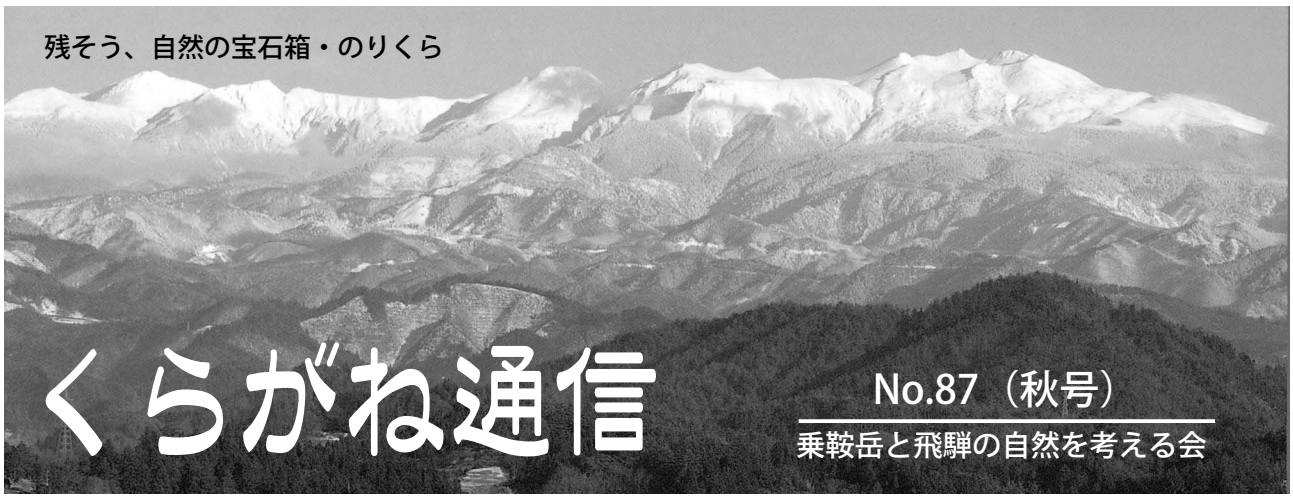

2022 年 10 月 1 日発行
http://iidalaw.net/norikura.html

環境省に抗議文を提出

環境省自然環境局国立公園課
中部山岳国立公園管理事務所 御中

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会
会長 飯 田　洋

乗鞍岳剣ケ峰の手書きの黄色の道標について

貴省は利用客が満足できる国立公園にするため、体制強化をはじめとする様々な積極的施策を実施し、保全と利用の調整を図られていることと存じます。

さて、過日、当会会員が乗鞍岳の剣ケ峰直下の登山道分岐地点から左方頂上小屋へ至る間で、岩に黄色い塗料（ペンキか化学合成塗料か不明）で手書きされた、大きな矢印道標（以下「本件道標」という）を数多く目にしました。

当該地域は中部山岳国立公園の特別保護地域内と思われますが、「特別保護地域内において広告物その他これに類する物を掲出し・・・広告その他これに類するものを工作物等に表示する場合においては、環境大臣の許可が必要」（自然公園法 13 条 3 項 6 号）です。本件道標もいわゆる「標識」で、「広告物に準じるもの」（自然公園実務必携 平成 15 年 8 月発行 中央法規出版 539 頁）である以上、本件道標を掲出する場合には前もって自然保護事務所に、広告物の表示方法、材料及び色彩などを示して許可申請書を提出し、環境大臣の許可を受けることが必要です。当会会員が乗鞍の「頂上小屋」に問い合わせたところ、本件道標は「貴省の許可取得済み」との説明がありましたが、この道標について貴管理事務所はどのような判断基準で許可されたのでしょうか。

本件道標は、大きさ、色調等、あまりにも粗雑、稚拙で山岳景観を著しく害しています。特別保護地域として保全され、地域と調和した「傑出した風景」の中でこそ、利用者は自然の地形、地質及び岩石等が醸し出す天地の景観を愉しむことができます。したがって、人が自然の岩石に対し塗料を塗る行為は落書きに等しい、著しい侵害行為になると思料します。

また、特別保護地域内における高山帯の脆弱な自然を守るという観点からは、岩石の表面に塗料で矢印を描くことは、その岩石に付着している地衣類、菌類等の生態系の攪乱にあたり、生物多様性の観点からも許されるものではありません。

マイカー規制以降、乗鞍岳の自然を見守って来た当会としては、本件行為は看過できない問題であり、貴省に強く抗議し、即刻、原状回復を要求するものです。

因みに、諸外国の国立公園では環境に配慮した、違和感のない統一された道標が設置されています。自然公園や自然保護区で本件道標のようなものを眼にしたことがありません。

地図やパンフレットでコースを紹介するなど（オーストリアでは 3D 画像で山岳登山路などを閲覧する映像設備がビジターセンターにあります）道標等の設置に替わる方法を取り、特別保護地域内で人工的に環境に改変を与えるようなことは厳格に慎むよう、当会としては公園内の関係者への徹底した貴省の指導、監督を要請いたします。

****

会員からの情報提供に基づき、以上の内容の抗議文を環境省に提出しました。後日国立公園管理事務所から電話連絡があり「道標は広告物に類するものには当たらない」、「許可はしていない」との回答が口頭でありました。文書で回答してほしい旨伝えたところ、その考えは無いとの答えでした。まさに「木で鼻を括る」を地で行く様な応対に終始していました。

なお、頂上小屋では一部の岩の向きを変えて見えにくくする、或は矢印の前にケルンの様に石を積んで目隠しをするかのような対応をしているらしいのですが、ご承知の通り 9 月に乗鞍スカイラインが再崩壊して、現状確認に行くのが困難な状態となっています。

今後とも、環境省に対し真摯な説明と対応を要求していきます。

アサギマダラのマーキング会

参加者 34 名

9 月 4 日（日）朝 8 時、前日に握ったおにぎりと虫とり網を携えて、集合場所の「道の駅ひだ朝日村」へ向かいました。その日の朝はとても良い天気で、アサギマダラに沢山会えるかもしれない期待に胸が膨らみました。アサギマダラの観察会に参加するのは、今回で 2 回目です。

集合場所に着いたら、アサギマダラについての説明があります。渡り蝶であるアサギマダラは、日本列島から南西へ向かい、遠くは台湾や中国まで飛行することもあるということ。高山で捕まえたアサギマダラは、石垣島まで飛んだ報告があるというお話でした。私たちが今日出会う蝶々たちは、一体どこまで飛んでいくのでしょうか。

チャオ御岳へ向かう途中、クマタカが 2 羽飛んでおり、ディスプレイ（求愛）している姿を初めて見ることができました。

また、標高 1800m 以下に広がっていた森林は、50 年前は、木の乱伐により切り株だけが残っている状態だったというお話を聞きました。50 年の歳月をかけて育った木々の周りをアサギマダラがひらひらと舞う姿を眺めながら、この場所を守ろうとした人たちに思いを馳せました。

道の駅から 29 キロほど走り、柳蘭峠へ

到着。鈴木さんが事前に捕まえてくださったアサギマダラの羽に、油性ペンで捕獲場所や日付、記録者などをマーキングして、空に放します。実は、私は虫が触れません。前回は主人が押さえている羽に文字を書いただけで満足でした。今日も隣で上手に羽を持っている子どもたちの方が先輩です。

鈴木さんが満面の笑顔でアサギマダラを持って来てくださったので、覚悟が決まりました。宝田さんの奥様に教わりながら、恐るおそる羽を持ちました。思ったよりもしっかりしていて軽い。手に乗っている姿はいつも以上に可愛い。

自身での捕獲は叶いませんでしたが「つぎは自分で捕まえたアサギマダラにマーキングをする」という、新たな目標が出来た一日でした。

貴重な体験をさせていただき、どうもありがとうございました。

直井　明香

****

ほんとにラッキーな一日でした。久しぶりに外にゆっくり出られて、それだけでも私は幸せな一日。

アサギマダラは、私の心の大きなロマンです。何に誘われて、海を渡るのか ネットで調べると、温度の関係だと書いてあったけどもっともっと大いなる自然の摂理があるような気がして、海で羽を休めるアサギマダラの写真もみました。どう考えてもロマンです。

マーキングという貴重な経験をさせてもらって ありがとうございました。

金澤　都子

****

「「ワア～ 飛んでる～！」「飛んでる～！」

「日和田の森」へ、遥々とようこそ「わたり蝶」の皆さん。

海を渡り旅をする蝶「アサギマダラ」の不思議な生命力には、「唖然」を超えてしまう驚きです。

この観察会に集まった大人達・子供達も皆んな、感動と感謝の歓びに浸ったはず。

子供達の真剣な温かい「まなざし・・・・」には、「何が・・・・？」

いつの日か、この子供達と、じっくり語り合ってみたい。楽しみですね。

「アサギマダラ」の「渡りと生命のロマン」に大感謝。有難うございました。

牛澤　功

水生昆虫調査

参加者 16 名

8 月 21 日、九頭竜川で活動しておられるサクラマス・レストレーション代表の安田龍司さんをお招きして、川上川で水生昆虫の調査をおこないました。調査に当たっては、前日（20 日）に安田さん、田之本さん、直井さんに同行してもらい、翌日の調査ポイントを決めるために川の様子を見て歩きました。その結果､川上川の 2 ポイント（市民プール横・清見町 B$G 横）で調査する事にしました。当日は朝方まで雨が降り心配しましたが増水も少なく、すっかり天候も回復し水生昆虫調査が行えました。

水性昆虫とは、生活史の一定期間を水中または水面で生活する昆虫で、一生を水中で生活する水生昆虫もあります。代表的な目ではトンボ目、カゲロウ目、トビケラ目、カワゲラ目、ハエ目、コウチュウ目などがあります。水生昆虫は水深､流速､河床材料､そして水質などの違いにより棲み分けしています

安田さんが持参して下さった調査用ネット（サーバーネット）を使って水生昆虫の採取を行い、採取した水生昆虫などは種の同定を行いました。

以下調査の結果同定された種です。

ヒゲナガカワトビケラ（優占種）
ウルマシマトビケラ
ヒロアタマナガレトビケラ
サナエトンボ
エルモンヒラタカゲロウ
クロマダラタニガワカゲロウ
タニヒラタカゲロウ
フタバコカゲロウ
ミツトゲマダラカゲロウ
オオクラカワゲラ
ヘビトンボ
ガガンボ類
ヨシノボリ
アジメドジョウ
ウグイの稚魚

調査後、安田さんが作成した資料に基づきお話を伺いました。その中で印象に残ったのが、河川の環境と生息密度の関係です。

河床の礫に隙間があると、それはトビケラ類の巣を作る場所、カゲロウやトビケラたちの生息場所を提供し、付着藻類の増加や有機物の堆積、或は出水時の退避場所となり、生物は河床を「**立体的に利用**」でき、従って個体数が増加するという事でした。反面、砂が礫の隙間を埋めてしまう環境では、水性生物にとって住みづらい環境で個体数は減少すると言う事です（次ページ表参照)。

身近な例で言えば、宮川の松本橋下流で

サーバーネットを使った採取

は河床が大きく掘り下げられ岩盤がむき出しになっていて、礫が無いに近い状態になっています。又川上川下流域では、上流での河川工事の影響からか礫間が砂で埋まっています。このような河床の状態にある川では水性生物にとって生息が厳しく、またそれをエサとする鳥や魚にも厳しい環境となっていると言えます。

河川工事は自然環境に配慮した工法がとられていた時期がありましたが、一時のブームだったようで、いつの間にやら忘れ去られてしまいました。洪水対策も大切ですが、河川に生息し或は河川環境に依存している生物にも目を向けた自然工法の復活を願いたいものです。

松崎　茂

サーバーネットに入った砂は篩にかけて、生物を選り分ける

ヒゲナガカワトビケラ

エルモンヒラタカゲロウ

オオクラカワゲラ

安田さんの提供資料から転載（九頭竜川での調査結果）

河床環境	河床材料	状態
A	砂＋大礫＋巨礫	硬化
B	砂＋大礫＋巨礫	隙間あり
C	細礫＋大礫＋巨礫	隙間あり
D	細礫＋中礫＋大礫＋巨礫	隙間あり

ヘビトンボ

河床環境と生息密度

	A	B	C	D
カゲロウ類	409	785	884	1132
トビケラ類	155	376	526	618
カワゲラ類	29	45	39	51
その他	188	322	355	387
合計	781	1528	1804	2188

今後のスケジュール

★里山こみちハイク

今回は岩滝地区を歩きます。（岩井城趾、石仏巡り）
日時：**10 月 16 日（日）**午前 9 時～午後 3 時
集合場所：丹生川支所駐車場（集合後移動）
持ち物 : 弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、筆記具、その他
服装等 : 軽快な服と靴、帽子

★自然談話室

今回は木下喜代男さんにお話をしていただきます。テーマは「乗鞍岳の登山道今昔」
日時：**10 月 28 日（金）**午後 7 時～午後 9 時
会場：高山市民文化会館（2-5）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

★ギフチョウ保全活動（下草刈り）

日時：**10 月 15 日（土）**午前 10 時～午後 3 時
集合場所：清見町池本 西正寺駐車場 (枝垂桜の西光寺と間違えないように)
持ち物：弁当、飲み物、タオル、長靴、（鎌等は鈴木さんが用意する）

★チャマダラセセリ保全活動（下草刈り）

日時：**11 月 5 日（土）**午前 10 時～午後 3 時
持ち物：弁当、飲み物、タオル、長靴、（鎌等は鈴木さんが用意する）
集合場所：高根町日和田留野原（国道 361 号、旧チャオスキー場への分岐にある広場）
※上記二つの事業に参加していただける方は**傷害保険**をかけますので、**ギフチョウ保全活動は 10 月 4 日、チャマダラセセリ保全活動は 10 月 23 日**までに**住所、生年月日**を**鈴木さんまで連絡**してください。後日参加できなくなっても問題ありません。
※鈴木俊文（ギフチョウの翔ぶ里山の自然を考える会　0577-33-1598、090-5856-2622）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

★御嶽山の自然と文化を見直す集い

日時：**10 月 30 日（日）**開演時刻：午後 1 時
会場：高山市民文化会館小ホール
基調報告：小野木三郎
鼎談：田中明（市長）、西春彦、小野木三郎

訂正とお詫び
前号（No.86) の P ３右下写真の蝶の名が違っていました。正しくは**エゾミドリシジミ**でした。

■ 会員を募集しています！　年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に入会をおすすめください
・郵便振替　00800-8-129365　　振 込 先　乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第 87 号 (秋号) 2022 年 10 月 1 日 発行
発行者　乗鞍岳と飛騨の自然を考える会　〒 506-0055　岐阜県高山市上岡本町 4-218-3　飯田　洋
TEL：0577-32-7206・ FAX：0577-32-7207
下記 URL のページから**くらがね通信のバックナンバー**が閲覧できます。
★ http://iidalaw.net/kuragane.html

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。
■ 編集責任者 : 松崎　茂　　E-mail : ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp　TEL：0577-34-4703
表紙写真提供 : 小池 潜　　印刷：山都印刷